

地域を支える看護師 日本の良さは思いやる心



ルシ ルシアナさん
—インドネシア—

ルシ ルシアナさんは沼田脳神経外科循環器科病棟の透析室で看護師をしています。2020年に永住権を取得。「大好きな沼田に家族で住み続けられる」と喜びます。

出身はインドネシア西ジャワ島のスカブミ。首都ジャカルタから約80キロ南に位置する、インド洋に面した観光地です。家族は父、母、兄、妹の5人家族で、農家を営んでいます。ルシアナさんはスカブミの看護学校を卒業後、現地の病院で看護師として3年間勤めました。

充実した日々を過ごす中、より高度な日本の看護技術の習得を目指し、2009年、インドネシア経済連携協定プログラムで留学生募集に応募。千人の中から300人が選ばれ、ルシアナさんも見事合格を勝ち取り日本へ渡りました。

来日後は、神奈川県箱根町の研修センターで2カ月間、

日本語を勉強し、翌年1月に現在勤務の病院に配属。看護師候補者として働きながら、日本語と看護師国家資格の勉強に励み、2012年に同資格に合格しました。職場のスタッフや患者さんとの関係も良好で、日本透析学会への発表にも参加しています。

資格取得の2年後に結婚。群馬県内のバーベキューパーティーで知り合ったインドネシア人で夫のアディティヤさんは、現在、市内の老人ホームで介護士として勤務し、息子のラファシヤ君は沼田東小学校の1年生です。

「相手を思いやる日本の文化や環境が素晴らしい」とルシアナさん。このような風習は子育てにも役に立ち、「多くの人のサポートで、息子は優しい子に育っている」と感謝します。今後も病気を抱える人たちに寄り添い、沼田で楽しく暮らしていくことに期待を膨らませます。

特集 外国人も地域の担い手

沼田で生活する外国人は約700人。多くは技能実習生として働くために訪れ、期間が終了すると自国へ帰りますが、中には、地域の担い手として住み続ける人もいます。沼田で活躍する外国人の皆さんが沼田の暮らしや良さ、自国の思いなどを語ります。



【写真右から】日本の浴衣とイスラム教の布「ビジャブ」をまとい結婚式を挙げる／遠い故郷から見守るかけがえのない家族と／楽しく働けるのはスタッフの皆さんのおかげと感謝する（ルシアナさん前列左）

